

すくわくプログラム報告書

施設名	田中ナースリー大和保育園
クラス	幼児
日付	2026.3.4

1 活動のテーマ

<テーマ>

水・砂・泥 （道具をしまう小屋づくりから遊びへ）

2 <テーマの設定理由>

小屋の中に自分で作った物にとって置く喜びを感じたり、遊びの続きを楽しめるようにする。
小屋の遊び道具の設置により遊びを引き出したり、やってみたい気持ちにつながるようにする。

3 環境の設定

<活動のために準備した素材や道具>

小屋、砂場道具、観察道具、段ボール

4 探索活動の実践内容 (子どもの姿、声、保育者の関わり)

小屋を設置後子どもたちが家の前に集まる。

扉を開けると小屋の中に入り、「いえだー」と喜び続々と入ってくる。



たくさんの子が家に入り、いっぱいになると子どもたちで「まんいんでーす」と知らせたり、そこに座ってと声をかけ隠れ家のように遊ぶ。

天井にソーラー電気がついているのを見て「でんきがついてる!」「ほんとだー」と子どもたち。異年齢同士会話をし、普段見られない交流が見られた。



「扉閉めたい」と言っていたが園庭遊び中は安全上開放しているため、段ボールを見た子どもたちがこれ使おうと段ボールを扉代わりにして遊ぶ。

よりお家ごっこのようになり扉の開け閉めを楽しんでいた。

保育者が中を覗くと「みないで」と子どもたちだけで遊ぶことを喜ぶ。



扉の横にシャベルをかけをつくった。「おしごといってきまーす!」とシャベルをもって砂場へいったり、杖の代わりにして「おばあちゃんだよー」とごっこの世界を友だちと楽しんでいる。

扱いやすさから使用頻度が増えたり、普段使わない子がシャベルを取って遊んでいた。

片付けも子どもたち自身で、保育者が促さなくても戻すのを楽しむ姿があった。

5 振り返り

園庭に小屋ができたことにより、物置としてだけでなく、「家ごっこ」の遊びの発展につながった。狭い空間でもスペースを開けて友だちが入れるようにしたり、「静かにして」と隠れ家のように、みんなで遊ぶ姿があり、自然と一体感が見られた。

小屋一つでも子どものイメージが、会話だけで共有でき、異年齢同士遊べる姿がとても印象的だった。またシャベルや砂場道具も、見やすく、使いやすくなったことで、普段触れない子も関心をもって、遊びにつながったことが良かったと思う。

今後も、泥だんごを乾燥させるために小屋の棚に置いたり、虫かごなどを置いて、いつでも使えるようにしていきたい。